



友達ができました



| | | |
|-------|---|------------|
| 国 | 籍 | 中国 |
| 職 | 種 | 介護 |
| 実習実施者 | | 株式会社レイクス21 |
| 監理団体 | | PNJ事業協同組合 |

孔 晓 庆
KONG XIAOQING

日本に来て、知らず知らずのうちにもう3ヶ月過ぎました。故郷を離れて、友達もなく、少し寂しい感じがあります。でも、職場の同僚や利用者様たちがとても優しいので、ホームシックを追い払えました。

介護の仕事が忙しいですが、少しの時間があったら、私は必ず利用者様の隣に行き、彼らとお喋りをします。「今日のお天気はどうか。」「あなたの故郷はどこですか。」等々。私が知らない町の名前がよく出てきます。「すみません、メモ帳にメモをして、帰ったら調べます。すぐにわかると思いますよ。」といつもこう答えます。

ある日、台湾出身のA様に出会いました。「あっ、台湾！嬉しいです。」やっと私が知っている都市が現れました。93歳のA様も目に光が見えるようになって、「台湾の高雄です！」と言いました。「台湾のドラマによく出て来ますね。」「あなた、高雄知っているの？本当に？よかった！…」その後、私は中国大陸から来たこと、山東省出身のこと、技能実習生のことなど何回も喋って、だんだんA様も心を開いてくれるようになりました。さすが台湾出身！中国の

事をよくご存知です。共通の話題が多くて、いつの間にか二人は本当に友達になりました。A様は17歳の時に日本に来たそうです。話をしながら、A様は引き出しの中から古いアルバムを出しました。私を近くに呼んで、見せてくれました。「これはね、私の17歳の写真だよ。」高校の卒業写真には、17歳のA様は優しい笑顔で写っています。とても可愛いです。私はアルバムを見ながら、中に挟んでいるしおりを発見しました。かなりの年代の物なので、ほぼ壊れそうです。少し残念に思います。ちょうど私は中国から中国風のしおりを持ってきました。その夜に一枚のしおりに、「おばあちゃん、毎日、愉快地楽しく過ごせますように」と書いてA様にあげました。彼女はしおりを見てその言葉を口にしました。そして、顔が上がった瞬間、私は彼女の目に涙が見えました。私も初めてこんな状況に遭ったので、慌ててA様を慰めました。「Aさん、遠慮しないでくださいね。私は1人で日本に仕事に来ました。日本人の友達がまだなくて、日本語も苦手です。良かったら、日本語を教えていただけませんか。」A様は涙を拭いて、「うん、ありがとう。」と言いました。

A様の涙と優しさに感激しました。中国人であれ、台湾人であれ、30歳であれ、93歳であれ、人と人の愛情は変わりません。ずっと暖かいです。一人で来日、ホームシックになった時もありますが、幸い、A様のような真心で接してくれる利用者様がいます。A様は私のことがただの介護員だと思われるかもしれませんが、A様が私の初めての日本の友達になりました。これからも、友達と他の利用者様にもっともっと良いサービスを提供して、毎日笑顔で過ごしますよう頑張ります。